

# 「気になる子ども」の保護者に対する 保育者の連絡方法と内容

大越和美

## はじめに

現在、多くの幼稚園、保育所に「気になる子ども」が存在します。保育者は「気になる子ども」への対応はもちろんのこと、その保護者への対応に多くの時間をかけています。

そこで本研究では、「気になる子ども」の保護者に対して、保育者はどのような時にどういう連絡をしているのか、連絡を受けた保護者はどう反応しているのかを明らかにしていくことを目的としました。

## 方法

宮崎県内で行われた幼稚園教諭を対象にした研修会の参加者に対して、質問紙調査（無記名）を実施しました。調査は、平成二十一年七月に行われました。回答者は現在「気になる子ども」を担当している35名です。

## 結果

保育の中で起こる出来事と、保育者が保育に困難



を感じると考える行動の中から15項目を提示し、いずれの場合に保育者が保護者に連絡をしているのか、また連絡をした方が望ましいと思うかを尋ねました（次ページ表1）。この表1の結果、保護者に連絡をした方が望ましいと思う割合が、実際に連絡をしている割合よりも、すべての項目で高くなっていました。

次に表1で尋ねたそれぞれの項目について、保育者が連絡をした際（おもに電話連絡）の保護者の様子を尋ねました（選択式・複数回答）。その結果から、以下のことが明らかになりました。

\*多くのケースで、保育者が保護者に状況を説明すると納得していました。しかし、その中でも次のような対応を求める保護者がいました。

①状況を説明しても、納得ができず、保育者の対応に不満をもち、園長や主任との話し合いを求める

保護者。

・制作がうまくできなかった時

（連絡をした保育者7名のうち29%）

・部屋から勝手に出て行った時

（連絡をした保育者12名のうち29%）

・危険な場所に入った時

（連絡をした保育者12名のうち8%）

②わが子だけでなく、友達に起こった問題の原因が

自分の子どもにあると考えている保護者。特に、

友達にケガをさせられた時も、自分の子どもに原

因があると考える傾向がありました。

・友達にケガをさせられた時

（連絡をした保育者29名のうち38%）

③子どもの行動に対して、保育者にアドバイスを求

める。

・一斉活動に一緒に参加できなかった時

・制作がうまくできなかった時

（連絡をした保育者合計22名のうち36%）



表1. 「気になる子ども」の保護者に連絡を取る内容

連 絡 内 容	連絡を している割合	望ましいと 思われる割合
自分でケガをした	86%	89%
友達にケガをさせられてしまった	83%	91%
持ち物をなくして（壊して）しまった	77%	83%
友達にケガをさせてしまった	66%	94%
パニックを起こしてしまった	66%	77%
昼食を食べなかった	63%	77%
友達や周りの人に対して乱暴な言葉、 行動（物を投げる、突き飛ばす等）をとった	54%	60%
友達に、持ち物をなくされて（壊されて）しまった	51%	74%
友達の持ち物をなくして（壊して）しまった	43%	77%
一斉活動時に一緒に活動ができなかった	43%	43%
部屋から勝手に出て行ってしまい なかなか戻れなかった	34%	46%
友達に、乱暴な言葉、行動（物を投げる、 突き飛ばす等）をされた	31%	43%
制作時にうまく活動をする事ができなかった	20%	26%
危険な場所に入ってしまった	17%	54%
その他	17%	9%

・友達とのかかわりに関して

友達にケガをさせてしまった。

友達や周りの人に対して乱暴な言葉、行動

(物を投げる、突き飛ばす等)をとった。

友達の持ち物をなくしてしまった。等

(連絡した保育者合計17名のうち19%)

④保育者に対して、子どもの行動についてアドバイ

スしてくれる保護者。

・ケガをした時

・パニックを起こした時

・昼食を食べなかった時

・部屋から勝手に出て行ってしまった時

(連絡をした保育者合計82名のうち27%)

## まとめ

私は、特別支援コーディネーターとして幼稚園に勤務しています。特別支援コーディネーターが指名されている幼稚園は、あまり多くありません。幼稚

園での特別支援コーディネーターの役割は次の通りです。

①園内の保育者や関係機関との連絡調整

園内の保育者や医療機関・療育機関・保健センター・特別支援学校等と連携

②保護者に対する相談窓口

保護者に対する園の相談窓口・保護者支援

③担任保育者や加配保育者への支援

園内の保育者に対して、相談・助言

園内研修の企画・運営

④個別の支援計画の作成

担任保育者・保護者と共に個別の支援計画の

作成

特別支援コーディネーターの役割の中に保護者(おもに特別支援対象児と保育の中で「気になる子ども」の保護者)に対する相談窓口があります。



日々の活動の中で、特に感じることは、保護者とのコミュニケーションをとることの難しさです。たとえば、「気になる子ども」の様子を保護者に細かく連絡し過ぎていたために、幼稚園に子どもを預けていていいのか不安をもたせてしまったことがあります。保育者からの電話があるたびに何か問題を起こしたのかと感じたそうです。一方で保護者に対する保育者の説明不足で、友達の起こした問題まで自分の子どもに原因があると考えてしまっていた保護者もありました。

勤務先の同僚保育者から「気になる子ども」をもつ保護者に対してうまくコミュニケーションをとるにはどうしたらいいか、という相談を数多く受けます。そこで、保育者と保護者がどのようにしたらうまくコミュニケーションがとれるようになるのか明らかにしたい、というところから本研究を企画しました。

保育者から連絡を受けた保護者は、どのような反

応をしているかを明らかにすることによって、保育者が保護者とコミュニケーションをとる際の資料を得たいと考えました。

「気になる子ども」をもつ保護者も、当然わが子の状態に対して悩んでいることがあります。わが子だけでなく、友達に起こった問題までもわが子に原因があると思っている場合もあります。わが子の状態に対して、保育者にアドバイスを求めてきます。その一方で、こまめに連絡を取らずに、保育者が遠慮をしてしまっていると、保護者が不安感をもつことになります。

子どもの様子を細かく伝えながら、保護者の話に耳をかたむけ、保護者の気持ちに共感しうなずいていくことが、保護者とうまくコミュニケーションをとることの第一歩だと考えています。

(認定子ども園あいう園 愛友幼稚園)

特別支援コーディネーター)